

ミナト製菓

「エスプリ」導入で小ロット
包材のハンドリングを改善

ミナト製菓は創業1888年で、安心・高品質の健康食品を販売する製菓企業だ。NB、PBをあわせて500種ほどの製品を通販をはじめとする多方面で販売している。少量多品種の通販業界にとって調達に難しいのがパッケージだ。商品が当たれば採算ベースに乗るが、規格変更や終売に伴い無駄に包材が残ってしまえば廃棄するしかない。従来のグラビア印刷では最小ロットがPBやアルミ原反で4000mが基本。「もう少し小さいロットで印刷できたらハンドリングも良くなるし、ユーザー(PBメーカー)にデザインを提案しやす」と同社の北崎登世社長は悩みを抱える。そんな要望に応えたのが、吉村紙業が提案する「エスプリ」だ。版代が掛からず、フィルムへのカラー印刷から製袋加工まで自由にできるため、今後さまざまな分野で利用が期待できそうだ。(江端哲也)



「グラデーションもキレイに
出せる」と高くエスプリを評
価する北崎登世社長

「エスプリ」は、高品質からオリジナルのパッケージを版レス印刷で、小ロットで製造できる。さまざま

な企画をローコストで実現でき、環境負荷も低減できる。在庫リスク軽減やキャッシュフローの改善に貢献する点が経営者の琴線に触れるようだ。デザイン変更が簡単で、チャック付三方袋、同スタンド袋、ガゼット袋と包装形態も自由に選べる。材質

版代掛からずカラー印刷から製袋加工まで自由に

も本アルミ、蒸着アルミ、透明ガスバリア、クラフトなどから選べる。最小ロットも500mからで通常の印刷ロットの約8分の1だ(同社比)。

北崎社長はかつて資材担当で、原料だけでなく包材調達も行っていた。アルミは4000mからという業界の慣例に対して「もっと小さいロットでないと、本当に自分たちの提案したいものができない」と業界に申し立てを唱えてきた。たまたま新聞で「エスプリ」の記事を読み、展示会で商品を見て、「これなら客先の要望にかなう」と太鼓判を押し、試験採用に踏み切った。

一昨年から導入で現在、PBも含めて全5品にエスプリが採用されている。従来はリピートであっても



①ミナト製菓のバラかほるサプリエスプリ使用後の新パッケージ ②エスプリ使用以前のパッケージは白いチャック袋にラベルを貼る簡素なものだった

製品の多くが、白いチャック袋にラベルを貼るといった簡素な作りだったが、「原

反のロットが大きいから対応できない、というのは負け惜しみではない。エスプリを使った包材で商品力がアップすれば、売上げにも貢献する」(北崎社長)という。エスプリを使うことにより、シールを貼る手間や貼り間違い、貼りスレなど一連の管理が不要になった。

デザイン修正も簡単
初回ロットの製品を市場に出してから、デザインやコピーの表現について課題や改善案が発見できたら、次回ロットでどんどん修正していくこともできる。まさに「新製品を小さく確んで大きく育ててゆく」ことが可能になった。

エスプリの課題は「製袋サイズが限定され、コスト面でグラビア印刷より割高という印象があるが、最近では金額も手ごろになり、袋サイズや材質でも広がりを見せている」(徳光高明 総務部購買課課長)という。